

ツール 27：力の形態

このツールの目的

MSPにおけるさまざまな力の「表現」や力の「顔」（目に見える、隠れた、目に見えない）について考える助けとなる。このツールは、力関係の一般的概念のいくつかについての説明となる。

このツールを使うタイミング

発散フェーズにおいて、ある問題についてのさまざまなステークホルダーの見解について深掘りし、それを取り込むことが重要となるタイミング。多くの場合、特定のステークホルダーグループ（NGOからのメンバー等）とこのツールを使うと最良の結果が得られる。

力の形態 – 2つのフレームワーク

このツールは2つのフレームワークから成り立っており、このフレームワークのそれぞれが、MSPにおける力関係の理解に違った形で役立つ。この2つのフレームワークの1つは「力の表現」であり、もう1つは「力の顔」だ。

力の表現：「～に対する」「～するための」「～と共に発揮する」「～に内在する」力

力はしばしばネガティブで高圧的なものと考えられている（「に対する力」は、1人の人間やグループ、組織の、他の人間やグループ、組織に対する支配やコントロールだと見なされる）。しかし、よりポジティブな考え方や行動につながる力の別の表現もある。

表現	実際に何を意味するか
「～するための力」：行動に向けた個人の能力	誰もが何かを変える「ための力」を持っているという考えに由来するもの（ 力の源泉フレームワーク を参照のこと）。
「～と共に発揮する力」：集団的アクション、共に行動する能力	「～と共に発揮する力」は、さまざまな利害や経験、知識の間に橋渡しするのに役立ち、リソースや戦略を一つにまとめてくれる。
「～に内在する力」：自己の価値、真価、尊厳についての個人または集団としての認識	「～に内在する力」を強化することで、個人は、変化を想像し、変化に対する目標を引き上げる能力を構築できる。

力の顔：「目に見える」「隠れた」「目に見えない」

力の分析は簡単ではない。なぜなら、多くの場合、力は目に見える明白な形では働かないからである。

目に見える	隠れた	目に見えない
目に見える力とは、正式なルールや構造、組織、意思決定のための手順など、我々が「見る」ことのできるさまざまな政治的な力などを指す。言い換えれば、これは、いかに力を持つ人々が、既存の手順や構造を用いて他者の活動をコントロールしているかを示すものだ。	隠れた力を発揮するとは、力のある人間や組織が、取り組み事項を設定・操作することで彼らの影響力を維持し、力の弱いグループの懸念や声を片隅に追いやるような場合を指す。力のある者にはゲームのルールが見え、それを理解することが可能だが、そうでない者にはできない。	目に見えない力とは、力のある者が作り出した信念体系を人々が取り込むという形で働く。問題や課題は、意思決定から離れたところに置かれ、意思決定により影響を受ける人々を含め、さまざまな人々の頭や心からも抜け落ちてしまう。このような際に、無力さが内面化される。
例：選挙、政党、予算、法律	例：特定のグループの声を除外する協議プロセスの質、裏で取り組み事項を設定する行為	例：特定グループの役割を制限することとなるネガティブなステレオタイプ

政策決定者のような目に見える力を持つ者とのエンゲージメントは、舞台裏で発揮される力や文化的・社会的規範や慣行に埋め込まれた力と対峙するよりも、多くの場合、容易い。しかし、隠れた力や目に見えない力を無視すれば、どのようにして変化が起こるのかや、どうすれば別の力の源泉を結集できるか、どの変革戦略を策定すればよいかについて、限られた理解しかできなくなる可能性が高い。

(力の有無に関係なく) 関係する者全員を条件づけている社会的・文化的制約を打ち破るには、目に見える形で力行使するか隠れた形で行使するかに関わらず「力を持つ者」に対峙するだけでなく、それ以上の戦略が必要となる場合がある。

議論のための問

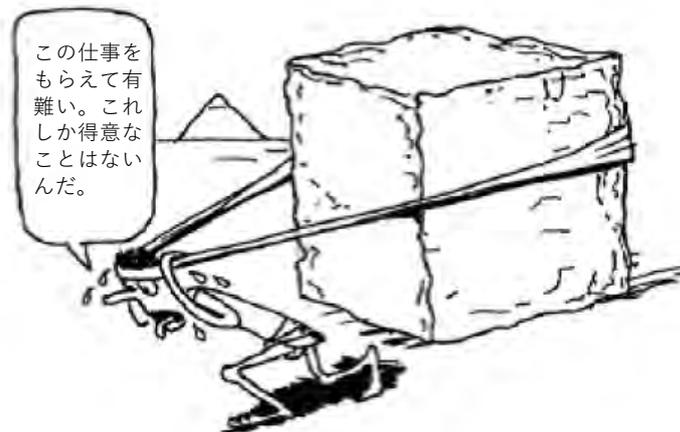
- 「力の表現」フレームワークを見て、それぞれのカテゴリーについて、自分の仕事に関係がある事例を思いつくだろうか？
- 「力の顔」フレームワークを見て、自分が対応中の問題に対し、隠れた力を行使している組織や人々を思いつくだろうか？



目に見える力



隠れた力



目に見えない力

さらに知りたい方は：

以下を参照した：Hunjan, Raji and Jethro Pettit (2011). Power: A Practical Guide for Facilitating Social Change. Carnegie Trust/IDS, UK. <http://tinyurl.com/q3lwbna>

The special issue of IDS Bulletin (Vol 47, Issue 5, November 2016) on Power, Poverty and Inequality, edited by Marjoke Oosterom and Patta Scott Villiers.開発協力の文脈における力の問題を取り上げた11の論文を掲載。公開文書。 <http://bulletin.ids.ac.uk/idsbo/issue/view/219>